

大学番号 私立97

注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 学部の設置

注1

認可

東京国際大学 医療健康学部

(必要がある場合) ○○専攻

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人東京国際大学

令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 学務課

職名・氏名 カチョウ タカダ タダハル
課長・高田 忠晴

電話番号 049-277-5889

(夜間) 090-6030-9827

e-mail gakumu@tiu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「○○大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) ○○大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「○○大学」
- 学部の設置の場合：「○○大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「○○大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「○○短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「○○大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「○○大学大学院 ○○研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

医療健康学部

<理学療法学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	30
7. その他全般的事項	31

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人東京国際大学

(2) 大学名

東京国際大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒350-1197
埼玉県川越市的場北 1-13-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(クラタ ノブヤス) 倉田 信靖 (H21.9)		
学長	(シオザワ シュウヘイ) 塩澤 修平 (H31.4)		
学部長	(タカイ シンロウ) 高井 信朗 (R3.4)		
学科長等	(フモト マサキ) 麓 正樹 (R3.4)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)
令和3年度に報告する内容 → (3)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
医療健康学部 理学療法学科 学士 (理学療法)	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	4年	80人		320人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和3年度										平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	0.83倍	— 倍	
志願者数	192 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
受験者数	181 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
合格者数	152 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
B 入学者数	67 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
入学定員超過率 B/A	0.83												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	令和3年度										備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	67 [-] (-)	— [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/				[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計			67 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和3年度	67 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
合計		0 人		— 人	— 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。

・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{67} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療健康学部 理学療法学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
TIUコア科目	ICT基礎	1前	2								1	
	大学生活デザイン演習	1前	2								1	
	小計 (2科目)	-	4	0	0	0	0	0	0	0	1	
教養コア科目	人間と文化	生命倫理学	1後	2								1
		人間関係論	1前	2								1
		哲学	1前・後	4								1
		倫理学	1前・後	4								1
		芸術論	1前・後	4								2
		文化人類学	1前・後	4								1
		Introduction to American Society	1後	4								1
	小計 (7科目)	-	4	20	0	0	0	0	0	0	0	7
	現代社会	法学	1前・後	4								1
		憲法	1前・後	4								1
社会学		1前・後	4								2	
現代の社会		1前・後	4								1	
心理学概論		1前・後	4								1	
小計 (5科目)	-	0	20	0	0	0	0	0	0	0	5	
自然科学と環境	基礎統計学	1後	2			1		1			1	
	環境と自然	1前・後	4								1	
	情報処理の基礎	1前・後	4								1	
小計 (3科目)	-	2	8	0	1	0	1	0	0	0	3	
スポーツ	健康・スポーツ科学	1前・後	4			1					1	
	健康・スポーツ実技	1前・後	1			1					2	
小計 (2科目)	-	0	5	0	1	0	0	0	0	0	2	
スキル科目	英語	Oral Communication	1前	2								3
		Reading & Writing	1後	2								3
		小計 (2科目)	-	4	0	0	0	0	0	0	0	3
自由選択科目	キャリア形成支援	インターンシップ (体験型)	1後	1								1
		インターンシップ (実践学修型)	1後	3								1
		ボランティア活動	1前	1								1
		キャリア・Re-スタート	1後	2								1
		地域の安全と警察	1後	2								1
	小計 (5科目)	-	0	9	0	0	0	0	0	0	2	
	プロジェクト科目	観光まちおこしワーク ショップ入門	1前・後	2								3
		観光まちおこしワーク ショップ実践A	1前・後	2								1
		観光まちおこしワーク ショップ実践B	1前・後	2								1
		観光まちおこしワーク ショップ実践C	1前・後	2								1
観光まちおこしプロジェクトA		2前・後	1								1	
観光まちおこしプロジェクトB		2前・後	1								1	
観光まちおこしプロジェクトC		2前・後	1								1	
小計 (7科目)	-	0	11	0	0	0	0	0	0	0	4	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
TIUコア科目	ICT基礎	1前	2								1	
	大学生活デザイン演習	1前	2								1	
	小計 (2科目)	-	4	0	0	0	0	0	0	0	1	
教養コア科目	人間と文化	生命倫理学	1後	2								1
		人間関係論	1前	2								1
		哲学	1前・後	4								1
		倫理学	1前・後	4								1
		芸術論	1前・後	4								2
		文化人類学	1前・後	4								1
		Introduction to American Society (未開講)	1後	4								1
	小計 (7科目)	-	4	20	0	0	0	0	0	0	0	7
	現代社会	法学	1前	4								1
		憲法	1前・後	4								1
社会学		1前・後	4								2	
現代の社会		1前・後	4								1	
心理学概論		1前・後	4								1	
小計 (5科目)	-	0	20	0	0	0	0	0	0	0	5	
自然科学と環境	基礎統計学	1後	2			1		1			1	
	環境と自然	1前・後	4								1	
	情報処理の基礎	1前・後	4								1	
小計 (3科目)	-	2	8	0	1	0	1	0	0	0	3	
スポーツ	健康・スポーツ科学	1前・後	4			1					1	
	健康・スポーツ実技	1前・後	1			1					2	
小計 (2科目)	-	0	5	0	1	0	0	0	0	0	2	
スキル科目	英語	Oral Communication	1前	2								2
		Reading & Writing	1後	2								2
		小計 (2科目)	-	4	0	0	0	0	0	0	0	2
自由選択科目	キャリア形成支援	インターンシップ (体験型)	1後	1								1
		インターンシップ (実践学修型)	1後	3								1
		ボランティア活動	1前	1								1
		キャリア・Re-スタート	1後	2								1
		地域の安全と警察	1後	2								1
	小計 (5科目)	-	0	9	0	0	0	0	0	0	0	2
	プロジェクト科目	観光まちおこしワーク ショップ入門	1前・後	2								3
		観光まちおこしワーク ショップ実践A	1前・後	2								1
		観光まちおこしワーク ショップ実践B	1前・後	2								1
		観光まちおこしワーク ショップ実践C	1前・後	2								1
観光まちおこしプロジェクトA		2前・後	1								1	
観光まちおこしプロジェクトB		2前・後	1								1	
観光まちおこしプロジェクトC		2前・後	1								1	
小計 (7科目)	-	0	11	0	0	0	0	0	0	0	4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育分野	人体の構造と機能及び心身の発達	運動解剖学	2前	1				1					
		運動学	1後	1				1					
		運動学実習	2前	1			2	2					
		運動生理学	2前	1			1	1					
		解剖学Ⅰ	1前	1			1						
		解剖学Ⅱ	1後	1			1						
		解剖学Ⅲ	1後	1			1						
		解剖学実習Ⅰ	1前	1			1	1					
		解剖学実習Ⅱ	1後	1			1	1					
		心身機能発達学	1後	1					2				
		生理学Ⅰ	1前	1			1						
		生理学Ⅱ	1後	1			1						
		生理学実習	1後	1			1		1				
	小計(13科目)	—	13	0	0	1	3	5	0	0	0	0	
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進	医学一般Ⅰ	2前	1			1	1					
		医学一般Ⅱ	2後	1			1	1					
		栄養学	2前	1								1	
		画像診断学	2前	1			1	1					
		救急救命医学	3前	1			1	1					
		公衆衛生学	2前	1								1	
		疾病予防と健康増進	3前		2		1						
		神経内科学Ⅰ	2前	1			1						
		神経内科学Ⅱ	2後	1			1						
		整形外科Ⅰ	2前	1			1						
		整形外科Ⅱ	2後	1			1						
		精神医学	2前	1				1					
		病理学	2前	1				1					
	薬理学	3前	1									1	
	臨床心理学	2後	1				1						
	小計(15科目)	—	14	2	0	2	1	0	0	0	0	3	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	健康ビジネス論	4後		2								1
		社会福祉概論	2前	1									1
		地域包括ケアシステム論	3後	1									1
チーム医療論		3後	1					1					
リハビリテーション概論		1前	1			1							
小計(5科目)	—	4	2	0	1	0	1	0	0	0	2		
基礎理学療法学	基礎理学療法学	1後	1					1					
	基礎理学療法学演習Ⅰ	1前	1			4	6	6					
	基礎理学療法学演習Ⅱ	1後	1			4	6	6					
	生体観察と触診法	1後	1			1		2					
	理学療法学概論	1前	1			2	5	3					
	理学療法学特論	2後		1		1	2	5					
	理学療法文献講読	3前		2			1						
	理学療法臨床英語	3後	1					1					
	小計(8科目)	—	6	3	0	4	6	6	0	0	0	0	
法医学	理学療法管理学	4後	2										
	小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育分野	人体の構造と機能及び心身の発達	運動解剖学	2前	1									
		運動学	1後	1									
		運動学実習	2前	1					2	2			
		運動生理学	2前	1			1	1					
		解剖学Ⅰ	1前	1							1		
		解剖学Ⅱ	1後	1							1		
		解剖学Ⅲ	1後	1							1		
		解剖学実習Ⅰ	1前	1							1		
		解剖学実習Ⅱ	1後	1							1	1	
		心身機能発達学	1後	1								2	
		生理学Ⅰ	1前	1							1		
		生理学Ⅱ	1後	1							1		
		生理学実習	1後	1							1		1
	小計(13科目)	—	13	0	0	1	3	5	0	0	0	0	
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進	医学一般Ⅰ	2前	1							1		
		医学一般Ⅱ	2後	1							1		
		栄養学	2前	1									1
		画像診断学	2前	1			1	1					
		救急救命医学	3前	1			1	1					
		公衆衛生学	2前	1									1
		疾病予防と健康増進	3前		2						1		
		神経内科学Ⅰ	2前	1							1		
		神経内科学Ⅱ	2後	1							1		
		整形外科Ⅰ	2前	1							1		
		整形外科Ⅱ	2後	1							1		
		精神医学	2前	1							1		
		病理学	2前	1							1		
	薬理学	3前	1									1	
	臨床心理学	2後	1							1			
	小計(15科目)	—	14	2	0	2	1	0	0	0	0	3	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	健康ビジネス論	4後		2								1
		社会福祉概論	2前	1									1
		地域包括ケアシステム論	3後	1									1
チーム医療論		3後	1								1		
リハビリテーション概論		1前	1							1			
小計(5科目)	—	4	2	0	1	0	1	0	0	0	2		
基礎理学療法学	基礎理学療法学	1後	1									1	
	基礎理学療法学演習Ⅰ	1前	1						4	7		6	
	基礎理学療法学演習Ⅱ	1後	1						4	7		6	
	生体観察と触診法	1後	1						1			2	
	理学療法学概論	1前	1						2	5		3	
	理学療法学特論	2後		1					1	2		5	
	理学療法文献講読	3前		2								1	
	理学療法臨床英語	3後	1									1	
	小計(8科目)	—	6	3	0	4	7	6	0	0	0	0	
法医学	理学療法管理学	4後	2							1			
	小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育分野	理学療法評価学	機能・能力評価学Ⅰ	1後	2		1						
		機能・能力評価学実習Ⅰ	1後	1		1		1				
		機能・能力評価学Ⅱ	2前	2		1						
		機能・能力評価学実習Ⅱ	2前	1		2						
		臨床運動分析学演習	2後	2		1						
	小計(5科目)	—	8	0	0	3	0	1	0	0	0	
	理学療法治療学	ウイメンズヘルス・メンズヘルス理学療法	4後	1		1						
		運動器理学療法Ⅰ	2後	1				1				
		運動器理学療法実習Ⅰ	2後	1		1		2				
		運動器理学療法Ⅱ	3前	1				1				
		運動器理学療法実習Ⅱ	3前	1		1		2				
		運動療法学	1後	1			1					
		運動療法学実習	2前	1			2					
		義肢装具学	2後	1					1			
		義肢装具学演習	2後	1			1	1				
		クリニカル・リーズニング総論	3後		2			1				
		クリニカル・リーズニング各論	4後		2			1				
		障がい者スポーツ支援論	4後		2				1			
		小児理学療法	3前	1				1				
		神経・筋疾患理学療法	3前	1								
		スポーツトレーニング特論	4後		2			1				
		スポーツ理学療法	3前		2			1				
		スポーツ理学療法演習	3後		2				1			
		神経理学療法Ⅰ	2後	1			1					
		神経理学療法実習Ⅰ	2後	1			1	1				
		神経理学療法Ⅱ	3前	1				1				
		神経理学療法実習Ⅱ	3前	1				2				
		疼痛理学療法	3後	1				1				
		内部機能理学療法Ⅰ	3前	1				1				
		内部機能理学療法Ⅱ	3前	1								1
		内部機能理学療法実習	3前	1				1				
		日常生活活動理学療法	2後	1				1				
		日常生活活動理学療法実習	2後	1				1	1			
		物理療法学	2後	1				1				
物理療法実習		2後	1				1	1				
理学療法リスクマネジメント演習		2後	1				1					
理学療法演習Ⅰ		2前	1			4	5	6				
理学療法演習Ⅱ		2後	1			3	3	6				
理学療法演習Ⅲ		3前	1			3	6	6				
臨床理学療法論		4後		2		1						
小計(34科目)	—	27	14	0	4	6	6	0	0	1		
地域理学療法	介護予防評価演習	3後		2		1	1					
	生活環境支援理学療法	3後	1			1						
	地域理学療法	3前	1				1					
	予防理学療法総論	3前	1				1					
	予防理学療法各論	4後		2		1						
小計(5科目)	—	3	4	0	1	2	1	0	0	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育分野	理学療法評価学	機能・能力評価学Ⅰ	1後	2		1					
		機能・能力評価学実習Ⅰ	1後	1		1		1			
		機能・能力評価学Ⅱ	2前	2		1					
		機能・能力評価学実習Ⅱ	2前	1		2					
		臨床運動分析学演習	2後	2		1					
	小計(5科目)	—	8	0	0	3	0	1	0	0	0
	理学療法治療学	ウイメンズヘルス・メンズヘルス理学療法	4後	1		1					
		運動器理学療法Ⅰ	2後	1				1			
		運動器理学療法実習Ⅰ	2後	1			1		2		
		運動器理学療法Ⅱ	3前	1				1			
		運動器理学療法実習Ⅱ	3前	1			1		2		
		運動療法学	1後	1					1		
		運動療法学実習	2前	1					2		
		義肢装具学	2後	1					1		
		義肢装具学演習	2後	1					1	1	
		クリニカル・リーズニング総論	3後		2				1		
		クリニカル・リーズニング各論	4後		2				1		
		障がい者スポーツ支援論	4後		2					1	
		小児理学療法	3前	1						1	
		神経・筋疾患理学療法	3前	1							1
		スポーツトレーニング特論	4後		2					1	
		スポーツ理学療法	3前		2					1	
		スポーツ理学療法演習	3後		2						1
		神経理学療法Ⅰ	2後	1				1			
		神経理学療法実習Ⅰ	2後	1				1	1		
		神経理学療法Ⅱ	3前	1				1			
		神経理学療法実習Ⅱ	3前	1				2		2	
		疼痛理学療法	3後	1				1		1	
		内部機能理学療法Ⅰ	3前	1				1		1	
		内部機能理学療法Ⅱ	3前	1							
		内部機能理学療法実習	3前	1				1		1	
		日常生活活動理学療法	2後	1				1		1	
		日常生活活動理学療法実習	2後	1				1	1	1	
		物理療法学	2後	1				1		1	
物理療法実習		2後	1				1	1	1		
理学療法リスクマネジメント演習		2後	1				1		1		
理学療法演習Ⅰ		2前	1				4	6	6		
理学療法演習Ⅱ		2後	1				3	4	6		
理学療法演習Ⅲ		3前	1				3	7	6		
臨床理学療法論		4後		2			1				
小計(34科目)	—	27	14	0	4	7	6	0	0	1	
地域理学療法	介護予防評価演習	3後		2			1	1			
	生活環境支援理学療法	3後	1				1				
	地域理学療法	3前	1					1			
	予防理学療法総論	3前	1					1			
	予防理学療法各論	4後		2			1				
小計(5科目)	—	3	4	0	1	2	1	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	計	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育分野	臨床実習	機能・能力評価学臨床実習	2後	5			4	5	6				
		総合臨床実習Ⅰ	3後	7			4	5	6				
		総合臨床実習Ⅱ	4前	9			4	5	6				
		小計(3科目)	—	21	0	0	4	5	6	0	0	0	0
	総合分野	総合理学療法学	4後	2			3	7	6				
		理学療法学研究法	3後	1			6	6	6				
		理学療法学研究実践法	4通	2			6	6	6				
		小計(3科目)	—	5	0	0	6	7	6	0	0	0	0
	合計(125科目)			—	117	98	0	7	7	6	0	0	32
	卒業要件及び履修方法												
1.基礎教育分野から18単位以上(「TJUコア科目」の必修科目4単位、「人間と文化」の必修科目4単位、「自然科学と環境」の必修科目2単位、「英語」の必修科目4単位、基礎教育分野の選択科目4単位以上)を修得。 2.専門教育分野の専門基礎科目の必修科目31単位を修得。 3.専門教育分野の専門科目の必修科目72単位を修得。 4.専門教育分野の専門基礎科目及び専門科目の選択科目を9単位以上修得。 5.卒業要件単位数である130単位以上修得していることを卒業要件とする。 6.履修上限単位数は各学期20単位と定める。ただし、臨床実習科目や集中講義等の授業期間外に修得する単位はこれに含めない。													

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	計	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育分野	臨床実習	機能・能力評価学臨床実習	2後	5			4	6	6				
		総合臨床実習Ⅰ	3後	7			4	6	6				
		総合臨床実習Ⅱ	4前	9			4	6	6				
		小計(3科目)	—	21	0	0	4	6	6	0	0	0	0
	総合分野	総合理学療法学	4後	2			3	7	6				
		理学療法学研究法	3後	1			6	7	6				
		理学療法学研究実践法	4通	2			6	7	6				
		小計(3科目)	—	5	0	0	6	8	6	0	0	0	0
	合計(125科目)			—	117	98	0	7	8	6	0	0	31
	卒業要件及び履修方法												
1.基礎教育分野から18単位以上(「TJUコア科目」の必修科目4単位、「人間と文化」の必修科目4単位、「自然科学と環境」の必修科目2単位、「英語」の必修科目4単位、基礎教育分野の選択科目4単位以上)を修得。 2.専門教育分野の専門基礎科目の必修科目31単位を修得。 3.専門教育分野の専門科目の必修科目72単位を修得。 4.専門教育分野の専門基礎科目及び専門科目の選択科目を9単位以上修得。 5.卒業要件単位数である130単位以上修得していることを卒業要件とする。 6.履修上限単位数は各学期20単位と定める。ただし、臨床実習科目や集中講義等の授業期間外に修得する単位はこれに含めない。													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ①授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・カリキュラムの見直しにより、法学の配当年次を「1前・後」から「1前」に変更。
- ・履修者数を考慮し、Oral Communicationの担当教員数を「兼任・兼担3」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・履修者数を考慮し、Reading & Writingの担当教員数を「兼任・兼担3」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・2021年1月AC教員審査により、神戸晃男准教授を追加。この結果、専任教員等の配置欄について、基礎理学療法学演習Ⅰ、基礎理学療法学演習Ⅱの「准教授6」を「准教授7」に、理学療法学演習Ⅰの「准教授5」を「准教授6」に、理学療法学演習Ⅱの「准教授3」を「准教授4」に、理学療法学演習Ⅲの「准教授6」を「准教授7」に、機能・能力評価学臨床実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱの「准教授5」を「准教授6」に、理学療法学研究法、理学療法学研究実践法の「准教授6」を「准教授7」に変更。
- ・2021年1月AC教員審査により、米澤美園専任講師に担当科目を追加。この結果、専任教員等の配置欄について、神経・筋疾患理学療法学の「講師0」を「講師1」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
117	98	0	215	117	98	0	215	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	Introductin to American Society	4	1後	一般	選択	履修者の減少により開講せず
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学の所見：履修者の減少により開講せず。
 学生への周知方法：時間割の公開。
 今後の方針：次年度以降、状況に応じて開講を検討する。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{1}{215} = \boxed{0.46} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考							
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地から運動用地 までの距離等 ・坂戸キャンパス：7 km（バス利用15分） ・河川敷校地：3km （バス利用3分）							
	校 舎 敷 地	77,288㎡	㎡	㎡	77,288㎡								
	運 動 場 用 地	201,978㎡	㎡	㎡	201,978㎡								
	小 計	279,266㎡	㎡	㎡	279,266㎡								
	そ の 他	2,675㎡	㎡	㎡	2,675㎡								
	合 計	281,941㎡	㎡	㎡	281,941㎡								
(2) 校 舎	専 用	87,966㎡	㎡	㎡	87,966㎡	下段が現有面積、上段 が池袋キャンパス（令 和5年9月完成予定）を 含んだ面積。							
	(61,195㎡)	(㎡)	(㎡)	(61,195㎡)									
(3) 教 室 等	講 義 室	124室	演 習 室	14室	実験実習室	7室	情報処理学習施設	21室	語学学習施設	12室			
							(補助職員 0人)		(補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数								
	医療健康学部 理学療法学科				21		室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不能 なため、大学全体の数					
	医療健康学部 理学療法学科	693,218 [115,698] (681,218 [113,898])	15,657 [14,089] (15,634 [14,076])	12,111 [12,111] (12,111 [12,111])	15,762 (15,722)	355 (355)	— (—)						
	計	693,218 [115,698] (681,218 [113,898])	15,657 [14,089] (15,634 [14,076])	12,111 [12,111] (12,111 [12,111])	15,762 (15,722)	355 (355)	— (—)						
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体						
	10,274㎡		648		699,000								
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体						
	4,473㎡		野球場2面、テニスコート8面、サッカー場3面、ゴルフ練習場2面、フットサル場3面、アーチェリー場1面、400Mトラック1面、ソフトボール場2面										
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。				
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	0千円	19,278千円	3,716千円					
	共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	0千円	221,441千円	0千円						
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
		1,800千円	1,550千円	1,550千円	1,550千円	—千円	—千円						
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入											

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	東京国際大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	
商学部	年	人	年次	人		倍	倍	年度	年度		
商学科	4	100	—	420	学士(商学)	0.85	0.73		昭和40	埼玉県川越市の場北1-13-1	定員変更R1(△20)
経営学科	4	80	—	340	学士(経営学)	1.14	1.26		平成25	同上	定員変更R1(△20)
経済学部		475	—	1,700		0.94	0.96				
経済学科	4	475	—	1,700	学士(経済学)	0.94	0.96	令和3	平成1	同上	定員変更R1(80)R3(40)
言語コミュニケーション学部		250	—	960		0.98	0.94				
英語コミュニケーション学科	4	250	—	960	学士(言語コミュニケーション学)	0.98	0.94	令和3	平成16	同上	定員変更R1(△20)R3(20)
国際関係学部		370	—	1,280		0.93	0.91				
国際関係学科	4	310	—	1,020	学士(国際関係学)	0.91	0.87	令和3	平成7	同上	定員変更R1(25)R3(65)
国際メディア学科	4	60	—	260	学士(国際メディア学)	1.01	1.10		平成19	同上	定員変更R1(△20)
医療健康学部		80	—	320		0.83	0.83				
理学療法学科	4	80	—	320	学士(理学療法学)	0.83	0.83	令和3	令和3	同上	学部開設R3(80)
人間社会学部		455	—	1,845		1.01	1.05				
福祉心理学科	4	25	—	125	学士(福祉心理学)	1.00	1.08		平成7	埼玉県川越市の場2509	定員変更R1(△25)
人間スポーツ学科	4	230	—	920	学士(人間スポーツ学)	1.01	1.01		平成23	同上	
スポーツ科学科	4	200	—	800	学士(スポーツ科学)	1.02	1.09		平成24	同上	
大学院商学研究科		—	—	—							
商学専攻(博士前期課程)	2	30	—	60	修士(商学)	0.46	0.26		昭和61	埼玉県川越市の場北1-13-1	
商学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	修士(デジタル経営革新)	0.33	0.33		昭和63	同上	
大学院経済学研究科		—	—	—							
経済学専攻(博士前期課程)	2	20	—	40	修士(経済学)	0.10	0.10		平成6	同上	
経済学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(経済学)	0.11	0		平成14	同上	
大学院国際関係学研究科		—	—	—							
国際関係学研究専攻修士課程	2	20	—	40	修士(国際関係学)	0.47	0.25		昭和59	同上	
大学院臨床心理学研究科		—	—	—							
臨床心理学専攻(博士前期課程)	2	25	—	50	修士(心理学)	0.22	0.24		平成13	埼玉県川越市の場2509	
臨床心理学専攻(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(心理学)	0	0		平成13	同上	
大学全体	—	1,913	—	7,079	—	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<医療健康学部 理学療法学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高井 信朗 (65) <令和3年4月1日> 医学博士
		医学一般Ⅱ 救急救命医学 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ
専	教授	小川 哲郎 (58) <令和3年4月1日> 博士(理学)
		基礎統計学 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	教授	杉本 諭 (54) <令和3年4月1日> 博士(保健医療学)
		疾病予防と健康増進 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 機能・能力評価学Ⅱ 機能・能力評価学実習Ⅱ 神経理学療法学Ⅰ 神経理学療法学実習Ⅰ 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 臨床理学療法論 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高井 信朗 (66) <令和3年4月1日> 医学博士
		医学一般Ⅱ 救急救命医学 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ
専	教授	小川 哲郎 (59) <令和3年4月1日> 博士(理学)
		基礎統計学 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	教授	杉本 諭 (55) <令和3年4月1日> 博士(保健医療学)
		疾病予防と健康増進 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 機能・能力評価学Ⅱ 機能・能力評価学実習Ⅱ 神経理学療法学Ⅰ 神経理学療法学実習Ⅰ 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 臨床理学療法論 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	武田 要 (49) <令和3年4月1日> 博士(保健医療学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 機能・能力評価学Ⅰ 機能・能力評価学実習Ⅰ 臨床運動分析学演習 ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法 理学療法学演習Ⅰ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
		龍 正樹 (48) <令和3年4月1日> 博士(芸術)
		健康・スポーツ科学 健康・スポーツ実技 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
		生田 太 (40) <令和3年4月1日> 博士(医療工学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 生体観察と触診法 運動器理学療法学実習Ⅰ 運動器理学療法学実習Ⅱ 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	武田 要 (50) <令和3年4月1日> 博士(保健医療学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 機能・能力評価学Ⅰ 機能・能力評価学実習Ⅰ 臨床運動分析学演習 ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法 理学療法学演習Ⅰ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
		龍 正樹 (49) <令和3年4月1日> 博士(芸術)
		健康・スポーツ科学 健康・スポーツ実技 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
		生田 太 (41) <令和3年4月1日> 博士(医療工学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 生体観察と触診法 運動器理学療法学実習Ⅰ 運動器理学療法学実習Ⅱ 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山本 大誠 (46) <令和3年4月1日> 博士(保健学)
		リハビリテーション概論 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 機能・能力評価学実習Ⅱ 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 予防理学療法学各論 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	准教授	岩瀬 利郎 (59) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		医学一般Ⅰ 医学一般Ⅱ 画像診断学 救急救命医学 神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ 精神医学 病理学 臨床心理学 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	准教授	池田 誠 (70) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 日常生活活動理学療法学 日常生活活動理学療法学実習 理学療法学演習Ⅲ 生活環境支援理学療法学 総合理学療法学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山本 大誠 (47) <令和3年4月1日> 博士(保健学)
		リハビリテーション概論 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 機能・能力評価学実習Ⅱ 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 予防理学療法学各論 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	准教授	岩瀬 利郎 (60) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		医学一般Ⅰ 医学一般Ⅱ 画像診断学 救急救命医学 神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ 精神医学 病理学 臨床心理学 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	准教授	池田 誠 (71) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 日常生活活動理学療法学 日常生活活動理学療法学実習 理学療法学演習Ⅲ 生活環境支援理学療法学 総合理学療法学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	諸角 一記 (65) <令和3年4月1日> 博士(学術)
		運動学実習 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 理学療法文献講読 義肢装具学演習 物理療法学 物理療法学実習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専任	准教授	二宮 省悟 (50) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 運動療法学実習 クリニカル・リーズニング総論 クリニカル・リーズニング各論 神経理学療法学実習Ⅱ 理学療法リスクマネジメント演習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	諸角 一記 (66) <令和3年4月1日> 博士(学術)
		運動学実習 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 理学療法文献講読 義肢装具学演習 物理療法学 物理療法学実習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専任	准教授	二宮 省悟 (51) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 運動療法学実習 クリニカル・リーズニング総論 クリニカル・リーズニング各論 神経理学療法学実習Ⅱ 理学療法リスクマネジメント演習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	戸島 美智生 (36) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		運動学実習 運動生理学 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 運動療法学 運動療法学実習 スポーツトレーニング特論 スポーツ理学療法学 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	准教授	川崎 翼 (36) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 神経理学療法学実習Ⅰ 神経理学療法学Ⅱ 神経理学療法学実習Ⅱ 疼痛理学療法学 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 介護予防評価演習 予防理学療法学総論 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	戸島 美智生 (37) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		運動学実習 運動生理学 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 運動療法学 運動療法学実習 スポーツトレーニング特論 スポーツ理学療法学 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	准教授	川崎 翼 (37) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 神経理学療法学実習Ⅰ 神経理学療法学Ⅱ 神経理学療法学実習Ⅱ 疼痛理学療法学 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 介護予防評価演習 予防理学療法学総論 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	金崎 雅史 (34) <令和3年4月1日> 博士(障害科学)
		解剖学実習Ⅱ 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 内部機能理学療法学Ⅰ 内部機能理学療法学実習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	講師	猪股 高志 (61) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		運動生理学 心身機能発達学 チー△医療論 基礎理学療法学 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	金崎 雅史 (35) <令和3年4月1日> 博士(障害科学)
		解剖学実習Ⅱ 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 内部機能理学療法学Ⅰ 内部機能理学療法学実習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	准教授	神戸 晃男 (60) <令和3年4月1日> 博士(保健学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法管理學 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	講師	猪股 高志 (62) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		運動生理学 心身機能発達学 チー△医療論 基礎理学療法学 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	芝原 美由紀 (61) <令和3年4月1日> 博士(健康情報科学)
		心身機能発達学 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 生体観察と触診法 理学療法学特論 義肢装具学 義肢装具学演習 小児理学療法学 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	講師	志村 圭太 (38) <令和3年4月1日> 博士(保健医療学)
		運動解剖学 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 生体観察と触診法 理学療法学概論 理学療法臨床英語 運動器理学療法学実習Ⅰ 運動器理学療法学実習Ⅱ 障がい者スポーツ支援論 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	芝原 美由紀 (62) <令和3年4月1日> 博士(健康情報科学)
		心身機能発達学 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 生体観察と触診法 理学療法学特論 義肢装具学 義肢装具学演習 小児理学療法学 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	講師	志村 圭太 (39) <令和3年4月1日> 博士(保健医療学)
		運動解剖学 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 生体観察と触診法 理学療法学概論 理学療法臨床英語 運動器理学療法学実習Ⅰ 運動器理学療法学実習Ⅱ 障がい者スポーツ支援論 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	一寸木 洋平 (33) <令和3年4月1日> 博士(学術)
		運動学 運動学実習 解剖学実習Ⅰ 生理学実習 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学特論 物理療法学実習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	講師	窪田 智史 (33) <令和3年4月1日> 博士(医療工学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 機能・能力評価学実習Ⅰ 運動器理学療法学Ⅰ 運動器理学療法学実習Ⅰ 運動器理学療法学Ⅱ 運動器理学療法学実習Ⅱ スポーツ理学療法学演習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	一寸木 洋平 (34) <令和3年4月1日> 博士(学術)
		運動学 運動学実習 解剖学実習Ⅰ 生理学実習 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学特論 物理療法学実習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
専	講師	窪田 智史 (34) <令和3年4月1日> 博士(医療工学)
		基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学概論 理学療法学特論 機能・能力評価学実習Ⅰ 運動器理学療法学Ⅰ 運動器理学療法学実習Ⅰ 運動器理学療法学Ⅱ 運動器理学療法学実習Ⅱ スポーツ理学療法学演習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	米澤 美園 (40) <令和3年4月1日> 博士(医学)
専	講師	基礎統計学 運動学実習 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学特論 日常生活活動理学療法学実習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 介護予防評価演習 地域理学療法学 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
兼任	教授	平山 龍水 (66) <令和3年4月1日> 博士(法学)
兼任	教授	I C T基礎 大学生生活デザイン演習 インターンシップ(体験型) インターンシップ(実践学修型) ボランティア活動 キャリア・R e-スタート
兼任	教授	吉田 量彦 (49) <令和3年4月1日> 博士(哲学)
兼任	教授	哲学 倫理学
兼任	教授	柄本 三代子 (54) <令和3年4月1日> 修士(文学)
兼任	教授	社会学 現代の社会
兼任	教授	高田 知和 (57) <令和3年4月1日> 修士(文学)
兼任	教授	社会学
兼任	教授	浮田 聡 (65) <令和3年4月1日> 博士(経済学)
兼任	教授	地域の安全と警察

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	米澤 美園 (41) <令和3年4月1日> 博士(医学)
専	講師	基礎統計学 運動学実習 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 理学療法学特論 神経・筋疾患理学療法学 日常生活活動理学療法学実習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ 理学療法学演習Ⅲ 介護予防評価演習 地域理学療法学 機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合理学療法学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法
兼任	教授	上野 博 (63) <令和3年4月1日> 博士(商学)
兼任	教授	I C T基礎 大学生生活デザイン演習 インターンシップ(体験型) インターンシップ(実践学修型) ボランティア活動 キャリア・R e-スタート
兼任	教授	吉田 量彦 (50) <令和3年4月1日> 博士(哲学)
兼任	教授	哲学 倫理学
兼任	教授	柄本 三代子 (55) <令和3年4月1日> 修士(文学)
兼任	教授	社会学 現代の社会
兼任	教授	高田 知和 (58) <令和3年4月1日> 修士(文学)
兼任	教授	社会学
兼任	教授	平山 龍水 (67) <令和3年4月1日> 博士(法学)
兼任	教授	地域の安全と警察

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	筑井 麻紀子 (53) <令和3年4月1日> 博士(工学)
		環境と自然
兼任	教授	小田切 紀子 (58) <令和3年4月1日> 博士(心理学)
		人間関係論
兼任	教授	竹内 宏行 (58) <令和3年4月1日> 博士(工学)
		基礎統計学
兼任	准教授	鄭 志誠 (47) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		生命倫理学
兼任	准教授	植村 清加 (47) <令和3年4月1日> 修士(文学)
		文化人類学
兼任	准教授	服部 泰造 (52) <令和3年4月1日> 修士(理工学)
		情報処理の基礎
兼任	准教授	岩田 真一 (52) <令和3年4月1日> 修士(体育学)
		健康・スポーツ科学 健康・スポーツ実技
兼任	講師	フェニヤート ペドロ Faingnaert Pedro (49) <令和3年4月1日> 修士(TESOL)
		Introduction to American Society
兼任	講師	スキャヴォネ スカイラ ヴィンセント Schivavone Skyler Vincent (35) <令和3年4月1日> 修士(TESOL)
		Oral Communication Reading & Writing
兼任	講師	アビゲイル キャリガン Abigail Carrigan (31) <令和3年4月1日> 修士(TESOL)
		Oral Communication Reading & Writing
兼任	講師	フィリップ ジョンソン Phillip Johnson (35) <令和3年4月1日> 修士(TESOL)
		Oral Communication Reading & Writing

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	筑井 麻紀子 (54) <令和3年4月1日> 博士(工学)
		環境と自然
兼任	教授	小田切 紀子 (59) <令和3年4月1日> 博士(心理学)
		人間関係論
兼任	教授	竹内 宏行 (59) <令和3年4月1日> 博士(工学)
		基礎統計学
兼任	准教授	鄭 志誠 (48) <令和3年4月1日> 博士(医学)
		生命倫理学
兼任	准教授	植村 清加 (47) <令和3年4月1日> 修士(文学)
		文化人類学
兼任	准教授	服部 泰造 (53) <令和3年4月1日> 修士(理工学)
		情報処理の基礎
兼任	准教授	岩田 真一 (53) <令和3年4月1日> 修士(体育学)
		健康・スポーツ科学 健康・スポーツ実技
兼任	教授	ミュラー ケビン MUELLER Kevin (52) <令和3年4月1日> 修士(教育学)
		Oral Communication Reading & Writing
兼任	准教授	ヘイズ ジョージ HAYS George (39) <令和3年4月1日> 修士(教育学)
		Oral Communication Reading & Writing

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	清水 良一 (53) ＜令和3年4月1日＞ 修士(声学)
		芸術論
兼任	講師	亀田 洋二 (56) ＜令和3年4月1日＞ 芸術修士
		芸術論
兼任	講師	大塚 敬子 (50) ＜令和3年4月1日＞ 修士(法学)
		法学
兼任	講師	横 裕輔 (48) ＜令和3年4月1日＞ 修士(法学)
		憲法
兼任	講師	宇根 優子 (45) ＜令和3年4月1日＞ 修士(文学)
		心理学概論
兼任	講師	網野 友雄 (39) ＜令和3年4月1日＞ 修士(コーチング学)
		健康・スポーツ実技
兼任	講師	桂 圭次 (66) ＜令和3年4月1日＞ 学士(経営学)
		観光まちおこしワークショップ入門
		観光まちおこしワークショップ実践A
兼任	講師	前 好光 (54) ＜令和3年4月1日＞ 学士(社会学)
		観光まちおこしワークショップ入門
		観光まちおこしワークショップ実践B
兼任	講師	大原 恵次 (72) ＜令和3年4月1日＞ 学士(文学)
		観光まちおこしワークショップ入門
		観光まちおこしワークショップ実践C
兼任	講師	宮口 直人 (42) ＜令和3年4月1日＞ 修士(経営学)
		観光まちおこしプロジェクトA
		観光まちおこしプロジェクトB
		観光まちおこしプロジェクトC
兼任	講師	坂本 謙司 (48) ＜令和5年4月1日＞ 博士(薬学)
		薬理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	清水 良一 (54) ＜令和3年4月1日＞ 修士(声学)
		芸術論
兼任	講師	亀田 洋二 (57) ＜令和3年4月1日＞ 芸術修士
		芸術論
兼任	講師	大塚 敬子 (51) ＜令和3年4月1日＞ 修士(法学)
		法学
兼任	講師	横 裕輔 (49) ＜令和3年4月1日＞ 修士(法学)
		憲法
兼任	講師	宇根 優子 (46) ＜令和3年4月1日＞ 修士(文学)
		心理学概論
兼任	講師	網野 友雄 (40) ＜令和3年4月1日＞ 修士(コーチング学)
		健康・スポーツ実技
兼任	講師	桂 圭次 (67) ＜令和3年4月1日＞ 学士(経営学)
		観光まちおこしワークショップ入門
		観光まちおこしワークショップ実践A
兼任	講師	前 好光 (55) ＜令和3年4月1日＞ 学士(社会学)
		観光まちおこしワークショップ入門
		観光まちおこしワークショップ実践B
兼任	講師	大原 恵次 (73) ＜令和3年4月1日＞ 学士(文学)
		観光まちおこしワークショップ入門
		観光まちおこしワークショップ実践C
兼任	講師	宮口 直人 (43) ＜令和3年4月1日＞ 修士(経営学)
		観光まちおこしプロジェクトA
		観光まちおこしプロジェクトB
		観光まちおこしプロジェクトC
兼任	講師	坂本 謙司 (49) ＜令和5年4月1日＞ 博士(薬学)
		薬理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	加藤 チイ (58) <令和4年4月1日> 博士(医学)
		栄養学
兼任	講師	芝原 修司 (61) <令和4年4月1日> 学士(教養)
		社会福祉概論 地域包括ケアシステム論
兼任	講師	柏木 哲夫 (60) <令和6年4月1日> 学士(経済学)
		健康ビジネス論
兼任	講師	伊藤 久美子 (29) <令和4年4月1日> 修士(リハビリテーション科学)
		公衆衛生学
兼任	講師	國澤 洋介 (46) <令和5年4月1日> 博士(保健科学)
		内部機能理学療法Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	加藤 チイ (59) <令和4年4月1日> 博士(医学)
		栄養学
兼任	講師	芝原 修司 (62) <令和4年4月1日> 学士(教養)
		社会福祉概論 地域包括ケアシステム論
兼任	講師	柏木 哲夫 (61) <令和6年4月1日> 学士(経済学)
		健康ビジネス論
兼任	講師	伊藤 久美子 (30) <令和4年4月1日> 修士(リハビリテーション科学)
		公衆衛生学
兼任	講師	國澤 洋介 (47) <令和5年4月1日> 博士(保健科学)
		内部機能理学療法Ⅱ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・神戸晃男准教授を追加。令和3年1月AC教員審査済。
- ・米澤美園専任講師の担当科目に神経・筋疾患理学療法学を追加。令和3年1月AC教員審査済。
- ・平山教授より、上野教授へ変更。年度での担当科目となり、今年度は上野教授の担当となる。
- ・浮田教授より、平山教授へ変更。年度での担当科目となり、今年度は平山教授の担当となる。
- ・フェニヤート ベドロ講師担当のIntroduction to American Societyは履修者の減少により今年度は開講せず。
- ・スキャヴォネ スカイラ ウィンセント講師より、ミューラー ケビン教授へ変更。
- ・アビゲイル キャリガン講師より、ヘイズ ジョージ准教授へ変更。
- ・フィリップ ジョンソン講師については、履修予定者数を考慮し、担当せず。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) -① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) -② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
8	7	6	—	21	—	7	8	6	—	21	—
(7)	(8)	(6)	(—)	(21)	(—)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
7	8	6	—	21	—	7	8	6	—	21	—
[Δ1]	[1]	[—]	[—]	[—]	[—]	[Δ1]	[1]	[—]	[—]	[—]	[—]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) -③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
70 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{21}{21} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{21} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率 該当なし

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

該当なし

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	R1.10	必修	○概論	①	
				選択	◆◆基礎	②	
				必修	☆☆演習	③	
2	准教授	△△ △△	R2.12	自由	××語	②	
				必修	▲▲実習	③	
				必修	◇◇特論	①	
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	#VALUE! 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE! 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE! 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任担当教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	H29.3	必修	○概論	①	
				選択	◆◆基礎	②	
				必修	☆☆演習	③	
2	准教授	△△ △△	R3.3	自由	××語	②	
				必修	▲▲実習	③	
				必修	◇◇特論	①	
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	#VALUE! 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE! 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE! 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任担当教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)		
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
#VALUE!	人	必修	#VALUE! 科目	必修	##### 科目
		選択	#VALUE! 科目	選択	##### 科目
		自由	#VALUE! 科目	自由	##### 科目
		計	#VALUE! 科目	計	##### 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{\#VALUE!}{21} = \#VALUE! \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

□人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	H30. 3. 31付け65歳で定年退職 (30)			
			選択	◆◆基礎	②				
			必修	☆☆演習	③				
2	准教授	△△ △△	自由	××語	②	R3. 3. 31付け65歳で定年退職 (3)			
			必修	▲▲実習	③				
			必修	◇◇特論	①				
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
○○	人	必修	#VALUE! 科目	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目
		選択	#VALUE! 科目	選択	○○ 科目	選択	○○ 科目	選択	○○ 科目
		自由	#VALUE! 科目	自由	○○ 科目	自由	○○ 科目	自由	○○ 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任担当教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和2年)	病院のみならず、卒業後の進路として掲げられた、スポーツトレーニング施設、行政機関、健康関連企業等への就職が可能となるよう就職支援の方策を説明すること。	遵守事項 本学医療健康学部理学療法学科において所定の科目を履修することで、卒業時に初級障がい者スポーツ指導員資格及びトレーニング指導者受験資格が得られるように、各民間団体に対して、養成機関の認定に関する手続きを進めてきた。トレーニング指導者資格については、2020年12月に特定営利活動法人日本トレーニング指導者協会より養成校の認定を受けた。初級障がい者スポーツ指導員資格については、関連する科目（4年次秋学期「障がい者スポーツ支援論」）が始まる令和6年度に養成校としての認定を受けられるように調整している。また社会福祉主事任用資格についても、所定の必修科目の単位を修得し、行政機関等に就職することで任用資格が得られるようにしている。これらの資格取得により、卒業後にスポーツトレーニング施設や行政機関等で働くために必要な知識を修得できるように、準備を進めている。就職支援の方策について右欄に記す。	履行中 本学では既に人間社会学部人間スポーツ学科及びスポーツ科学科の2学科において、健康関連企業、スポーツトレーニング施設、行政機関への就職を支援してきた実績がある。スポーツ系2学科で蓄積されたデータを活用することによって、病院以外の就職を希望する学生の就職を支援することが可能であると考えられる。今後、キャリアセンターと密に連携を取り、病院以外への就職を支援する予定である。計画としては、就職先を具体的に考え始める3年次までには、キャリアセンターによる就職セミナーを複数回開催する予定である。また各学生に対して専任教員が個別面談を実施することで、就職活動を支援していく予定である。
認 可 時 (令和2年)	「総合臨床実習Ⅰ」と「同Ⅱ」において実施する地域理学療法に関する実地体験について、実習施設を適切に確保するとともに、計画に基づいて確実に履行すること。	遵守事項 2021年4月に臨床実習に関連した業務を担当する教職員（学部運営主任、学年担任・副担任、教務課職員）が決まった。現在、臨床実習の学生配置に関するチェック体制と連携体制の調整を行っているところである。	履行中 地域理学療法に関する実地体験を行える施設を確保するとともに、臨床実習の配置状況を2名以上で、複数回チェックできる体制を整え、計画通りに、全ての学生が地域理学療法に関する実地体験を確実に進めるようにしていく予定である。
認 可 時 (令和2年)	「東京国際大学学術研究倫理委員会規程」について、外部委員の属性や人数が不明確であることから、学術研究倫理委員会規程を明確に修正すること。	遵守事項 「WMAヘルシンキ宣言-人を対象とする医学研究の倫理諸原則」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省）を踏まえ、「東京国際大学 人を対象とする医学系研究倫理審査規程（2021年4月1日施行）」を制定済み。（資料1参照）	履行済 令和3年3月23日付「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示1号）」に沿い、本規程を修正する予定である。
認 可 時 (令和2年)	教員の補充を必要とされた12科目については、科目開講時まで確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	遵守事項 令和3年1月のAC教員審査において、准教授1名の追加、専任講師の担当科目の追加を審査済み。審査の結果、当該12科目全てに対応済み。	履行済

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医療健康学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

機能別教授会(資料2参照)の1つとしてFD委員会を設置している。委員長は副学長のうち1名が担当する。本学での委員会の位置づけは「教員能力の開発に関する事項」となっているため、以下に記載する通り審議事項は教育に限定されていない。また、今年度からはSDについても事務局と連携して積極的に取り組んでいくことが確認されている。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

年2～4回程度：特段の理由がない限り欠席者無し
※大学論叢・大学院紀要の発行については、別に作業部会があり、必要に応じて実施

c 委員会の審議事項等

全学FD研修会の開催
学部FD実施状況の把握
授業評価アンケート実施
特別研究助成申請/図書出版補助申請の審査
大学論叢・大学院紀要の発行
FDニューズレターの発行 等

② 実施状況

a 実施内容 2020年度の状況

- ・全学FD研修会：2020年度は「教育の質保証と学習成果の可視化」
- ・2020年度はコロナ対応としてZoom活用によるリアルタイムでのオンライン授業を導入した。春学期終了時には学生と教員にアンケートを行い、授業評価アンケートの結果を合わせて、学生の学習状況を把握するとともに授業での好事例を教員に向けて公表した。
- ・2021年度は対面授業を増やしていくため、オンデマンド方式を授業を取り入れることとし、別途作業部会をつくり、指針案を作成し全学に対しその説明会を実施した。また、同作業部会では他大事例の収集や発表、授業コンテンツ例の作成やオンライン授業での著作権説明コンテンツの作成を行い、教員にむけて公表した。
- ・その他、本学では学長の指示により、組織別にそこで抱える課題に応じたFDの実施が推奨されており、2020年度は、初年次を中心とした演習対応やオンライン授業の事例発表や実践の練習等を実施している。
- ・2021年度は、SDとしてハラスメント研修を全教職員対象に実施が予定されている。
- ・医療健康学部では2021年度にFD研修会を2回予定している。1回目(春学期)は学部長より「インストラクショナルデザインについて」と題して、特に臨床から教育の現場に移った教員をターゲットに、授業における基本的な教授法などに關する話題を提供する。2回目(秋学期)は、全学のFD活動の動向を受けた学部FD研修会を行う予定である。

b 実施方法

2020年度については、ほとんどがZoomでの開催となった。全学FD研修会ならびにオンデマンド授業指針説明会については、録画を行って欠席者に視聴するよう促し、できるだけ多くの教員が受講できるよう取組を行った。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

全学FDのほか、組織別・課題別のFDを開催し、2020年度は合計50回の開催があり、専任教員の93.2%がいずれかの研修会には参加している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・全学FD研修会により、シラバスについて、DPやCPを意識した作成となるようチェックリストを作成し、担当者自身が点検し改善を行うという取組を行った。
- ・2020年度はオンラインでの授業対応を迫られ、機器やシステムの扱いからはじまり、授業運営事例の発表・共有を研修で積み重ね、個々に抱える問題を改善して授業を行い、オンライン授業に関するアンケートでは6割の学生が満足と回答し、教員側でも約9割が学生の理解度が対面と変わらないもしくは向上していると回答している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

(1)実施：有 *原則として学部・大学院の開講科目すべてを対象として実施。
(2)実施時期：春学期(7月)、秋学期(12月)

b 教員や学生への公開状況、方法等

集計結果および、教員による授業に対する考察資料を学内ポータルシステム内で教員・学生に公開している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

資料3参照

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・2018年4月公表 2016(平成28)年度東京国際大学自己点検・評価報告書(2017年度大学評価申請用報告書)
- ・2020年10月公表 2019(令和元)年度自己点検・評価報告書(学内自己点検・評価報告書)

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開
<https://www.tiu.ac.jp/about/>

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成29(2017)年度に評価機関(大学基準協会)の認証評価を受審し、2018年4月1日より2025年3月末日までの適合認定を得た。
- ・次回は令和6年(2024)年度に評価機関(大学基準協会)の認証評価を受審予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和3年度)

a 公表予定の有無 [(有) ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

2021年2月19日制定

東京国際大学 人を対象とする医学系研究倫理審査規程

(目的)

第1条 この規程は、「WMA ヘルシンキ宣言—人を対象とする医学研究の倫理諸原則」並びに「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号(平成29年一部改正)、以下「基本指針」という)を踏まえ、本学において実施される人を直接対象とする医学系研究について、当該研究が人間の尊厳および人権に配慮しつつ適正に実施されるよう、その内容に係る審査の実施及びその他の必要な事項を定める。

(適用範囲)

第2条 この規程は、基本指針の適用範囲に含まれる人を対象とする医学系研究をその適用対象とし、本学において実施される当該研究の倫理審査に関する必要な事項は、基本指針及びその他の関係法令による他、この規程の定めるところによる。

2 前項に拘わらず、他の法令または告示の適用範囲に含まれる研究にあっては、これらに従う。

(委員会の設置)

第3条 前条の目的を達成するため、人を対象とする医学系研究倫理審査委員会(以下「委員会」という)を置く。

(委員会の任務)

第4条 委員会は、学長の諮問に応じ、医学系研究の実施計画の審査申請等に関して審査し、意見を述べる。

(組織)

第5条 委員会は、医学系研究倫理を担当する副学長1名を含め、次の各号に掲げる委員をもって組織し、各委員は理事長がこれを委嘱する。

- (1) 医学・医療の専門家等の自然科学に関する識見を有する者 3人以上
 - (2) 倫理学・法律の専門家等の人文・社会科学に関する識見を有する者 1人以上
 - (3) 研究対象者の観点も含めて一般の立場から意見を述べることができる者 1人以上
- 2 委員会の委員は、男女両性で構成する。
- 3 委員のうち2名以上は本学に所属しない者とする。
- 4 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求めて説明又は意見を聴くことができる。

(委員の任期)

第6条 委員会の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じたときは、速やかに当該欠員を補充するものとする。その場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第7条 委員会に委員長を置き、医学系研究倫理を担当する副学長たる委員がこれにあたる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるとき又は欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(審査)

第8条 本学において、医学系研究を実施しようとする者は、当該研究の実施計画について、予め審査申請書により学長宛てに審査の申請をしなければならない。

2 学長は、前項の申請を受理したときは、速やかに委員会に諮問する。

3 委員会は、前項の学長よりの諮問を受け、申請された研究の実施計画等につき、医学的、倫理的及び社会的観点から、特に次に掲げる事項に留意して審査を行う。

- (1) 研究等の対象となる個人の人権の擁護
- (2) 研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法
- (3) 研究等によって生じる個人への不利益及び危険性と医学上の貢献度の予測
- (4) 社会への貢献

(委員会の議事等)

第9条 委員会は、全委員の3分の2以上が出席し、かつ、第5条第1項第(1)号から(3)号のそれぞれの委員1人以上が出席しなければ会議を開くことができない。

2 委員会は、審査に当たり、研究等の実施責任者を出席させ、実施計画の内容等について説明又は意見の聴取を求めることができる。

3 委員会の委員は、自己の申請した研究等に係る審査に参加することはできない。

4 委員会の議決は、出席委員の全員の合意を原則とする。

5 前項の規定により議決が得られない場合は、次回開催委員会に置いて審議し、全委員の3分の2以上の合意をもって議決とする。

6 審議又は審査経過及び結論の内容は記録として保存し、委員会が必要と認めるときは、これを公表することができる。ただし、研究対象者の人権、研究の独創性又は知的財産権のため非公開とすることが必要な部分については、この限りではない。

(迅速審査)

第 10 条 前条の規定にかかわらず、委員長は、次の各号のいずれかに該当するものについては、指名する 2 名の委員による審査（以下「迅速審査」という。）を行わせることができる。

- (1) 既に委員会において承認されている実施計画の軽微な変更の審査
- (2) 共同研究であって、既に主たる研究機関において倫理委員会の承認を受けた研究計画を分担研究として実施しようとする場合の実施計画の審査
- (3) 侵襲を伴わない研究であって介入を行わない実施計画の審査
- (4) 軽微な侵襲を伴う研究であって介入を行わない実施計画の審査

2 委員長は、迅速審査を行ったときは、その結果について、当該審査を行った委員以外の全ての委員に報告しなければならない。

3 委員長は、前項の報告を受けた委員から理由を付して請求があったときは、委員会において当該事項について審査しなければならない。

(審査の判定等)

第 11 条 審査の判定は次の各号に掲げる区分により行うものとし、委員長は、判定結果を審査資料とともに文書により速やかに学長宛てに報告する。

- (1) 承認
- (2) 条件付承認
- (3) 変更の勧告
- (4) 不承認
- (5) 判定保留
- (6) 非該当

2 学長は、前項の報告を踏まえて、申請者に対し、審査の判定結果を通知するものとする。

3 申請者は、承認の通知を受領した後でなければ当該研究等を実施することはできない。

(異議の申立)

第 12 条 前条により通知された審査判定結果に対して異議がある場合には、申請者は、学長に対し再度の審査を、1 回に限り申請することができる。この場合、異議申立書に異議の根拠となる資料を添付するものとする。

2 学長は、前項の再審査の申請があったときは、速やかに委員会に諮問するものとする。

3 委員長は、諮問に応じて速やかに委員会を招集し、再審査のうえその判定結果を学長に報告するものとする。

4 学長は、前項の報告を踏まえて、申請者に対し再審査の判定結果を通知するものとする。

(記録の保存)

第 13 条 委員会が審査を行った研究計画の審査資料の保存期間は、当該研究の終了または中止について報告された日から 5 年間保存するものとする。

(進捗報告と措置命令)

第 14 条 申請者は、承認を受けて実施する研究の進捗状況を、毎年度末までに委員会経由学長宛てに報告しなければならない。

2 学長は、前項の報告を受け、当該研究の実施状況が第 1 条に定める目的に照らし不適切と判断した場合、必要に応じ委員会の意見を徴したうえで、当該研究の実実施計画の変更・中止を含む必要な是正措置を講じるよう、申請者に命ずることができる。

(有害事象等への対応)

第 15 条 侵襲性を有する介入研究の実施において研究対象者に重篤な有害事象又は不具合等が発生したときは、申請者は、直ちにその内容を委員会経由学長宛てに報告しなければならない。

2 前項の報告を受けた場合、学長は、委員会の意見を聴取のうえ、速やかに必要な措置を講じなければならない。

(結果報告)

第 16 条 申請者は、承認を受けて実施した研究を終了又は中止したときは、遅滞なく文書により委員会経由学長宛てに報告しなければならない。研究結果の公表をしたときも同様とする。

(教育・研修)

第 17 条 医学系研究に従事する者は、医学系研究に関する倫理並びに医学系研究の実施に必要な知識について、委員会が指定する講習を含む必要な教育を受けなければならない。

2 学長は、医学系研究者が医学系研究の倫理に関する講習その他必要な教育を受けることを確保するために必要な措置を講じなければならない。

3 委員会の委員及び事務従事者は、倫理的観点及び科学的観点から審査等に必要な知識を習得するため、委員会が指定する講習を定期的に受講しなければならない。

(守秘義務)

第 18 条 委員会委員は、職務上知り得た情報を正当な理由なく漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(個人情報の管理)

第 19 条 学長は、医学系研究の実施に際して取得される個人情報が個人情報保護法の定め

る要配慮個人情報を含むことがある点に鑑み、その保護に万全な配慮がなされるよう、医学系研究者並びに委員会委員及び関連事務従事者に対し、必要な監督を行わなければならない。

2 前項に定める個人情報の保護については、学校法人東京国際大学個人情報保護規程及び学校法人東京国際大学個人情報保護ガイドラインに加え、基本指針の規定に従う。

(事務)

第 20 条 委員会の事務は、学務部教育研究支援課において行う。

(改廃)

第 21 条 この規則の改廃は、常務会の議を経て理事長が行う。

附 則

この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

○東京国際大学機能別教授会規程

2017年5月25日 制定
最近改正 2020年12月17日

(目的)

第1条 この規程は東京国際大学教授会設置規程に基づき、機能別教授会の組織及び運営について定めることを目的とする。

(意見具申)

第2条 次の機能別教授会（以下「各教授会」という。）は、次の項目について学長に意見を具申する。

- ・ 就学管理委員会
～学生の入学、卒業、課程の修了、学位の授与及び懲戒に関する事項
- ・ カリキュラム編成委員会
～カリキュラム編成に関する事項
- ・ グローバル化推進委員会
～グローバル化推進に資する諸施策の企画立案に関する事項
- ・ FD委員会
～教員の能力開発に関する事項、論叢紀要編集を含む
- ・ CD委員会
～学生の進路指導・支援に関する事項
- ・ 全学人事委員会
～教員の人事に関する事項（国際戦略研究所所属教員を除く）
- ・ 国際戦略研究所人事委員会
～国際戦略研究所所属教員の人事に関する事項
- ・ イングリッシュ・トラック・プログラム運営機構
～イングリッシュ・トラック・プログラムの運営に関する事項
- ・ 言語教育機構
～学生の言語運用能力向上に関する事項
- ・ スポーツ医科学機構
～理学療法学科設置準備に関する事項
- ・ 自己点検・評価委員会
～自己点検・評価及び内部質保証の推進に関する事項

(委員の任命、解任)

第3条 各教授会の委員は、教職員他の中から常務会の議を経て理事長が任命、解任する。

(委員長及び副委員長)

第4条 各教授会に委員長を置き、必要に応じ、委員長を補佐する副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、各委員会の委員の中から、常務会の議を経て理事長が任ず

る。

(招集)

第5条 各委員会は委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長に事故あるときは、副委員長が代行する。副委員長に事故あるとき又は副委員長を置かない委員会にあつては、委員長の指名した者が議長となる。

(任期)

第6条 各委員会の委員の任期は、1年とする。なお、第3条において特定の職に在職することを以て委員に選任された場合、当該職を退いたときには委員を退任するものとする。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長がこれを行う。

附 則

この規程は、2017年5月25日から施行する。

附 則

この改正規程は、2019年11月1日から施行する。

附 則

この改正規程は、2021年4月1日から施行する。

資料 3

医療健康学部理学療法学科の設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

東京国際大学では、全学部を挙げて現代社会のニーズに応じた人材の養成に取り組んできたが、「少子高齢化の進展」に伴う日本社会の変化（医療・介護需要増大とそれによる健康増進・介護予防分野の重要性増大）に対応すべく、今般、既存の5学部に加えて、新たに「医療健康学部」を設置した。当該学部においては、本学の建学の精神及び教育理念の下に、医療・健康科学における専門的知識・技術をもって心身の健康を支援することで社会に貢献できる人材を養成することを教育目的としている。特に当該学部の「理学療法学科」は、現代社会の問題を理学療法の視点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材を養成することを教育目的としている。

医療健康学部理学療法学科は、2021年4月に開設した。本報告書においては、設置の趣旨・目的の達成に向けた本学の具体的な取り組みの現状について報告することとする。

1. 入学試験の実施

医療健康学部理学療法学科では、教育目的を達成するために以下のアドミッション・ポリシーを定めている。

医療健康学部理学療法学科のアドミッション・ポリシー（AP）

大学の建学の精神と教育理念および本学部・学科の教育方針に賛同し、次の素養と意欲をもつ学生を求めます。

1. 大学での学修および活動に積極的に取り組む意欲と行動力を有する。
2. 高校での授業および活動などを通じて、基礎的な学力と基本的な学修態度を身につけている。
3. 健康・医療に興味関心があり、他者への慈しみの心を持って社会に貢献する意欲を有する。
4. 理学療法士を目指し、専門知識や技術を学ぶ意欲を持ち、そのための努力をすることができる。

上記のAPに基づき、学校推薦型選抜、一般選抜、総合型選抜を実施した。入学者選抜の実施方法としては、申請時の計画に基づき、書類審査（調査書、志望理由書）、あるいは基礎学力を確認するための筆記試験を行った。また全ての入学者選抜試験において面接試験を実施した。面接試験では、理学療法士としての基本的な資質（コミュニケーション能力、学習意欲等）を評価した。その結果、APを満たした67名の学生を本学に迎えることができた。

入学者に対しては、理学療法学を学ぶ上で重要となる「高校生物」「高校物理」「高校化学」の知識を確認するためのWebアンケートを実施し、入学者の高校までの学習内容の把握に努めている。

2. 学生への教育理念と教育課程の周知徹底

本学では、先述した教育目的を達成するために、カリキュラム・ポリシー（CP）を定め、その上で、体系的な教育課程を編成している。学生に対して、①入学前、②入学オリエンテーション（2021年4月2日）、③基礎理学療法学演習Ⅰ第1回目（2021年4月6日）で、医療健康学部理学療法学科の教育課程の内容について説明した。下記のCP6にある「臨床理学療法」、「スポーツ理学療法」、「予防理学療法」

から構成される履修モデルについては、本学の教育課程で特に重要な部分であるため、複数回説明を行った。今後も「基礎理学療法学演習Ⅰ」、「基礎理学療法学演習Ⅱ」の授業において、大学での学修計画やキャリアデザインについて指導していく予定である。

初年度春学期から理学療法学を学ぶ上での基礎となる「解剖学Ⅰ」、「生理学Ⅰ」、「解剖学実習Ⅰ」などの授業が開始した。入学オリエンテーションにおいて、専門基礎科目と専門科目の関係性について学生に伝え、1年次から意欲的に学修するように促している。講義では、学生の主体的な学びを引き出すため、インタラクティブな授業を展開している。また、Moodleと呼ばれる学修管理システムを積極的に活用し、学修の習慣化を促している。

医療健康学部理学療法学科カリキュラム・ポリシー（CP）

1. 基礎教育分野において、良好な人間関係構築に必要な基礎理論を修得した上で、少人数制の演習授業を通じて、人々に対して思いやりをもって接することができるようにする。
2. 基礎教育分野及び専門教育分野の講義科目で、医療倫理及び理学療法倫理を学び、臨床実習科目で倫理原則の遵守を実践することで、理学療法士に求められる高い倫理観と道徳観を身につけられるようにする。
3. 臨床実習科目において、理学療法を必要としている人々を身体・心理・社会的立場・人格などあらゆる角度から理解できるようにする。
4. 専門教育分野において、科学的根拠に基づく理学療法の実施に必要な知識・技能を修得できるようにする。
5. 統計学や研究法に関する科目、少人数制の演習科目を通じて、専門職の生涯学習に必要な基本的な学修スキルおよび意欲・態度を身につけられるようにする。
6. 理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応するために、近年ニーズが高まっている臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法に関する選択科目を設ける。

3. 学内教職員の共通理解の徹底

医療健康学部理学療法学科に着任予定であった専任教員は、計画通りに医療健康学部に着任した。4月から「基礎理学療法学演習Ⅰ」の授業を担当する教員が多数いるため、入職前からオンライン会議を通じて、医療健康学部理学療法学科の教育理念、教育目的、教育課程の概要について情報を共有した。また、本学で使用するオンラインシステムを早期から活用できるように、入職者向け研修会を開催し、着任予定の教員が受講した。4月から授業が開始し、学部会議、学部運営会議、理学療法士教員だけの会議（プロパー会議）を頻回に実施していることにより、教員間の連携を取れた上で、順調に授業を実施できている。

4月1日に学部運営委員やアドミッション担当者等の役職が決定し、担当者を中心に臨床実習、入試関連業務、国家試験対策などの準備を進めている。

4. 感染拡大予防策の実施

現在、コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令され、依然として感染者数が減少していない。医療健康学部理学療法学科では、教育効果を考え、厳しい感染症予防策を講じた上で、対面授業の形

式で授業を行っている。具体的な感染予防策としては、正門でのサーモグラフィーによる検温を行い、感染の疑いのある学生の入構を防いでいる。また入構情報についても記録を行い、万が一感染者が出た場合に早期に対応できるようにしている。「解剖学実習Ⅰ」などの実習科目においては学生同士の感染リスクが高まるため、「医療健康学部実習科目実施ガイドライン」を春学期開始前に作成し、ガイドラインに基づき、実習を行っている。学生から、症状の有無の確認、マスクの着用、ディスカッション時のフェイスシールド着用、アルコールによる手消毒などを徹底させている。「基礎理学療法学演習Ⅰ」においても、学生に対して感染症予防の方法とその必要性について周知徹底を図っている。

本学では、感染拡大に備え、オンライン会議システム（ZOOM）や、オンデマンド動画配信システムを整備しており、万が一、感染者が出た場合でも非対面で教育を継続できるように環境構築を進めている。

5. 臨床見学について

「基礎理学療法学演習Ⅰ」においては、6月から医療施設を中心に臨床見学を行う。現在、学部運営委員の臨床実習担当者を中心に、臨床見学施設の依頼と学生の配置を行っているところである。入学早期に臨床を体験し、理学療法士の役割や社会的責任を考える機会になるように準備を進めているところである。

以上のように、設置の趣旨・目的の達成に向けて、教職員で連携を図りながら進めており、順調に教育活動を行えている。